

世界旅打ち気分

●第70回・芝で行われるハーネス

須田鷹雄



写真1) この2階が入場者の過ごすスペース



写真2) 400m以上の直線を駆けてくる
ハウエラのレース



写真3) ランギオラのほうは
入場者の多い日だった

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

この連載もかなり長いこと続けているが、ニューヨークを取り上げたことはなかった。というか筆者が20年以上ニューヨークには行っておらず、ネタにしようがなかったのである。

しかし24年1月、カラカの1歳馬セールの参加するついでに、ニューヨークであちこちの競馬場を回ってきた。今回はその中から、ハウエラとランギオラの2場を紹介する。

この2場を聞いてその共通項に気付くマニアはさすがにいないだろう。この2場は「芝のハーネス」を實施している競馬場だ。

ハーネスレースについてはこの連載でも何回か取り上げたことがあり、最近だとシドニーのアルビオンパークとバンクスタウンを紹介した。

一般にハーネスのトラックはサラブレッドのコースより周長が短く、路面は砂なのだが、ゆるゆるダートコースとは違う。かなり堅い路面である。馬車を曳く競技なので走りやすくするためだろう。また、周長が短いということはコーナーが急なわけで、遠心力で馬車が転

倒することのないよう、コーナーにはカントが付いていることが多い。

しかし世界には稀に、芝コースで行われるハーネスのレースが存在する。旅打ちマニアとしては一度見ておきたいもので、筆者も実はハウエラが初めての体験だった。

ハウエラはニューヨークの北島にある街だが、オークランドから車で行くのはちよつと無理がある。オークランドからだとニューヨークという街に飛行機で飛び、そこから車で1時間半くらいのこと

ろだ。グーグルマップだと1時間と表示されるが、山越えの部分もあるのでもう1時間ではちよつと厳しい。途中には、昔ながらの風景が広がる田舎街がいくつかあって、ドライブとしては楽しい。

そしてこの競馬場、「ハウエラ+競馬」と検索しても出てこない。グーグルマップの競馬場所在地には「FRC」と謎の3文字が表示されるのみである。クチコミは1件しか登録されておらず、しかも「ここで仕事をしていた」というものだ。

競馬場のホームページも無いし、広報しようという意欲が感じられない競馬場だが、フェイスブックは産を残しているところはあるが、ハウエラのオッズ板はシブさが凄かった。

もうひとつ紹介するランギオラ競馬場は南東にある。日本人居住者や留学生も多いクライストチャーチから車で北へ30分ほどのところだから、日本人が行きやすいといつことではこちらが勝る。

ただ気を付けなくてはいけないのが、ランギオラのハーネスは全開催日が芝というわけではないということだ。2024〜2025年シーズンでいうと全部で10開催日のうち、芝での開催は2回しかない。

筆者が行ったのはそれとはまた別な、他の主催者がランギオラを借りて施行する開催日で、これが幸運なことになった。

施設としてはランギオラのほうが新しいし、立派だ。事務所棟を兼ねたメンバーメインのスタンド（すぐ前がパレードリング）は1983年の築だそう、竣工時の記念写真が飾られている。もうひとつのバブリックスタンドは2015年にできたというからかなり新しい。スペースの一部は地元スポーツチームが使うジムになっており、有

あるらしい。「FRC」の意味は分かった。「エグモント・レーシング・クラブ」の略で、ここはサラブレッドとハーネスの同居している競馬場、そしてサラを主催するクラブの名前が「エグモント・レーシング・クラブ」なのだ。

スタンドの中には昔の写真が飾られているのだが、男性2人が写った写真を見るとひとりが昔のプレジデント、もうひとりが競馬場の初代秘書だという。理事長の任期が1983年から1993年、秘書の任期は1982年からだということから、この競馬場、実に19世紀から存在していたのだ。

そして、スタンドなどの建物は、どれもめっちゃめちゃ古い。さすがに19世紀の築ではないだろうが、そうであっても驚かないレベルだ。観覧エリアはなにもない段々のスタンド（一部は閉鎖されている）と、パドックに面した2階建ての建物。こちらは1階が業務エリアになっているが、2階のアスファルトラウンジという部屋に一般人も入れる。この部屋が興味でなにもないというのか、100年前の客もここでこうして馬券を買っていたんだろうな

効活用されている。

筆者の行った開催がなにか特別な開催なのか、入場者は多かったしハンバーガーの屋台なども出ていた。子供たちを対象にしたイベントなども実施されていた。

観覧エリアも十分な広さがあり、それなりのフードを売っているカフェとバーが設けられ、TABの馬券売り場も何窓あった。ニューヨークは場内ブックメーカーの営業が無いので、馬券を買うのはすべてTAB経由になる。

入場者も多かったし、たまたまこの日がそうだっただけかもしれないが、ランギオラのほうが「ちゃんとした開催」という印象ではあった。しかしそれゆえに、面白みというのには正直なかつた。芝の開催日でなかったら「ハズレ旅打ち」のほうに入ってしまうくらいだ。

というか、ハウエラのほうが良かったのかもしれない。初見ではものすごく小さい、そしてとても古臭い競馬場にしか見えないのだが、現地に行くとあちこち見えて回ると味が分かってくるというのか、ハウエラは明らかに「当たり旅打ち」だったのだ。

ームのようにこの手の「競馬遺

ームのようにこの手の「競馬遺

ームのようにこの手の「競馬遺